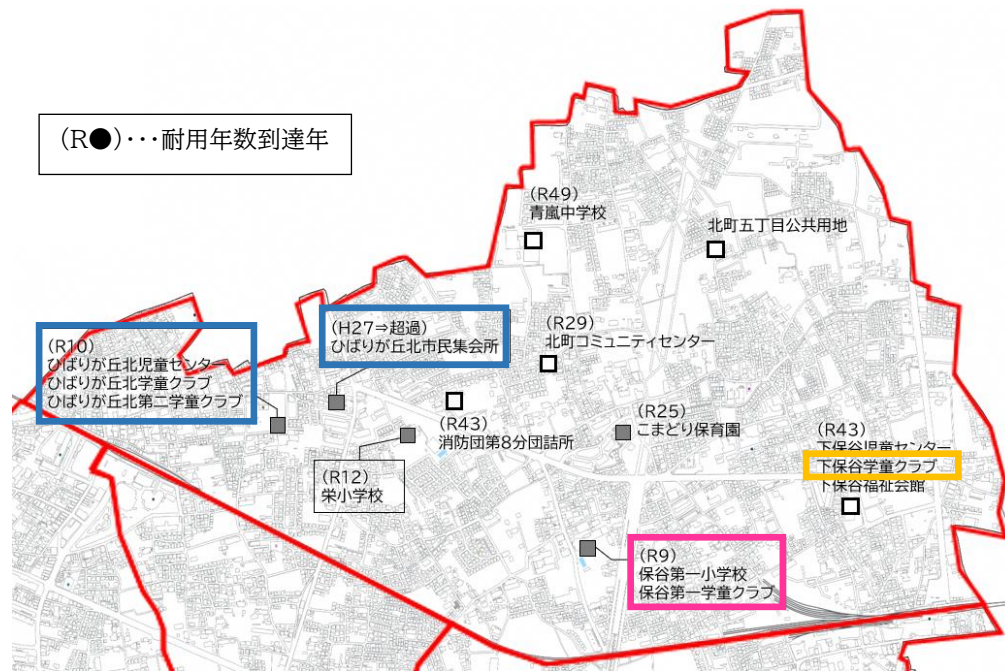


1 保谷第一小学校複合化等の検討

(1) 複合化等を検討する施設・機能の選定

公共施設再編計画において、令和15年度までの計画期間中に法定耐用年数を超過する施設又は既に超過している施設、早期に取り組む課題のある施設を「優先検討施設」として位置付けている。

保谷第一小学校へ複合化等を検討する施設の選定に当たっては、優先検討施設の検討の他に、施設分野ごとの適正配置の状況や、学校施設と複合化等を検討する標準的なサービス機能を有する施設について複合化等の可能性があるものとして、具体的な検討を行う。



【出所：西東京市公共施設再編計画（令和6年3月策定）から引用作成】

※太枠（青枠）囲みは優先検討施設かつ学校施設と複合化等を検討する標準的なサービス機能を有する施設を示す

(2) 施設分野ごとの適正配置の状況

施設分野	適正配置状況
市民交流施設	保一小：0（空白） 栄小：2施設（重複）
児童館	2施設（重複）
基幹型保育園	0（空白）
福祉会館等	1施設（適正）
行政相談機能	なし

(3) 学校施設と複合化等を検討する他のサービス機能の考え方

公共施設等総合管理計画及び公共施設再編計画では、計画策定時に実施した行政又は公共施設に関わりのある団体向けの「施設関係団体ヒアリング・アンケート」や市民参加による意見等を踏まえて、学校施設と複合化等を検討する標準的なサービス機能を次のとおり整理している。

学校施設との複合化等を検討する標準的なサービス機能

「行政機能」、「貸館機能」、「子ども・子育て支援機能」、
「保育機能」、「図書情報機能」、「文化機能」、「スポーツ機能」

⇒その他の機能を有する施設については、その施設の適正配置の状況や耐用年数、今後の市民意見等を踏まえて、施設再編について検討することとする。

2 複合化等の方向性①

【凡例】 ○：複合化等実施する施設・機能

(1) 青嵐中学校通学区域における公共施設・機能の整理

施設名	建築年	耐用年限	築年数	残存年数	既存 延床面積	併設施設	所有 形態	用途 地域	再編 優先検討	学校との複 合化等	保谷一小との 複合化可能性	備考
1北町コミュニティセンター	1997	2047	28	22	456.16			○		○		栄小学校通学区域
2ひばりが丘北市民集会所	1985	2015	40	-10	111.81		借地 借家	○	○	○		栄小学校通学区域
3栄小学校	1970	2030	55	5	5,350.50		一部 借地	○	○	—		
4青嵐中学校	2007	2067	18	42	13,290.80			○		—		
5下保谷児童センター	2011	2061	14	36	2,027.72	下保谷福祉会館、下保谷学童クラブ		○		○		
6ひばりが丘北児童センター	1978	2028	47	3	512.85	ひばりが丘北学童クラブ、ひばりが丘 北第二学童クラブ		○	○	○		
7下保谷学童クラブ	2011	2061	14	36	142.10	下保谷児童センター、下保谷福祉会館		○		○	○	主に保谷一小児童
8ひばりが丘北学童クラブ	1978	2028	47	3	71.00	ひばりが丘北児童センター ひばりが丘北第二学童クラブ		○	○	○		主に栄小児童
9ひばりが丘北第二学童クラブ	1978	2028	47	3	67.00	ひばりが丘北児童センター ひばりが丘北学童クラブ		○	○	○		主に栄小児童
10保谷第一学童クラブ	1967	2027	58	2	122.00	保谷第一小学校		○	○	○	○	主に保谷一小児童
11こまどり保育園	1993	2043	32	18	500.85		借地 借家	○		○		都営住宅
12下保谷福祉会館	2011	2061	14	36	1,018.85	下保谷児童センター 下保谷学童クラブ		○				
13消防団第8分団詰所	2011	2061	14	36	95.06		借地	○				
14相談窓口・交流スペース										○	○	
15集会所（貸館機能）								○		○	○	

(2) 複合化等の方向性

- 学童クラブ ⇒ 学童クラブは小学校へ整備していく適正配置の考え方により、保谷第一学童クラブの複合化と合わせて下保谷学童クラブを集約化する。
学童クラブの整備に当たっては、現在の過密化や児童推計を考慮した面積を確保する。
- 集会所（貸館機能） ⇒ 市民交流施設の空白対応により、学校内に貸館機能を確保する。貸し部屋の運用方法については別途協議の上、決定する。
貸し部屋は、一教室分を整備する。
- 相談窓口・交流スペース ⇒ エリア（圏域）における行政サービス機能の早期展開を図るため、小学校内に整備する。

3 複合化等の方向性②

<保谷第一小学校との複合化等を想定する施設・機能>

施設・機能	既存 延床面積	想定必要 延床面積	備考
保谷第一小学校	6,099㎡	約8,411㎡	敷地面積：11,767㎡
保谷第一学童クラブ	122㎡	約670㎡	左記必要面積から共用部の縮減を図る
下保谷学童クラブ	142.1㎡		
相談窓口・交流スペース	—	約400㎡	駐車場、駐輪場を有する※
集会所（貸館機能）	—	約76㎡	駐輪場を有する※
防災備蓄倉庫	47.8㎡	約65㎡	
合 計	約6,411㎡	約9,622㎡	

※駐輪場、駐車場は共用の可能性あり

ここで示す複合化後の想定面積は、各施設の運営に当たって必要とされる面積（現時点での概算）であり、建物に関する床面積としている。

詳細な面積の検討に当たっては、施設配置やゾーニングの考え方により、可能な限り想定する面積からの縮減を図るものとする。

また、施設単体で更新する場合と比較して、複合化等により更新等費用（イニシャルコスト）の縮減と、維持管理费用（ランニングコスト[1㎡当たり]）の抑制を目指す。

（１）その他の再編優先検討施設

再編における優先検討施設である、ひばりが丘北市民集会所、ひばりが丘北児童センター、ひばりが丘北学童クラブ・北第二学童クラブについては、栄小学校通学区域の施設であることから、栄小学校の更新と併せて、改めて検討する。

（２）エリア（圏域）における取組の推進

エリア（圏域）における早期の取組を推進するため、保谷第一小学校において「相談機能の強化」、「コーディネート機能の充実」、「居場所の確保」、「社会参加の機会創出」といった行政サービス機能の展開を図る。

整備に当たっては、相談窓口とともに、交流スペース、学習スペース等を設け、人が集まる仕組みづくりを検討する。

また、身近な相談窓口の設置に当たっては、高齢者相談機能（地域包括支援センター）の方向性についても、相談機能の連携を踏まえ検討していく。

（３）基幹型保育園の検討

基幹型保育園の空白対応について、保谷第一小学校の敷地では、基幹型保育園に必要な建物や園庭等の面積の確保や適切な配置が難しいことを踏まえて、現状のこまどり保育園を中心とした地域子育て支援センターの運用を検討していく。